

# 世界最高の電費性能をめざして。 エネルギー効率を、さまざまな角度から追求。

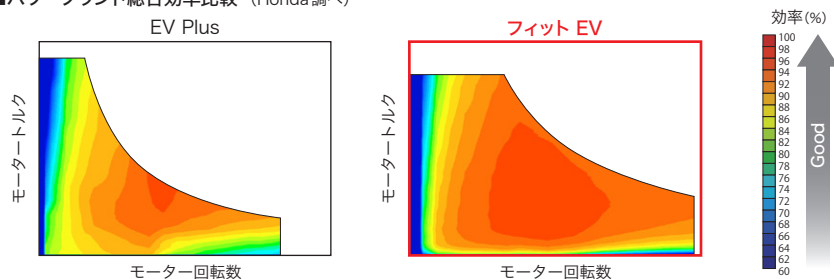
電気自動車は、ガソリン車に比べてエネルギー効率のよいクルマです。逆にいえば、電気自動車のエネルギー効率を向上させることは、限界への挑戦といえるかもしれません。フィットEVでは、少ない容量のバッテリーで少しでも長く走ることができる電気自動車を求めて、エネルギー効率を徹底追求。さまざまな角度から効率を追求することで、世界トップの電費性能をめざしました。

## さまざまな角度から効率を追求し、国内トップ<sup>※1</sup>の電費性能を実現。

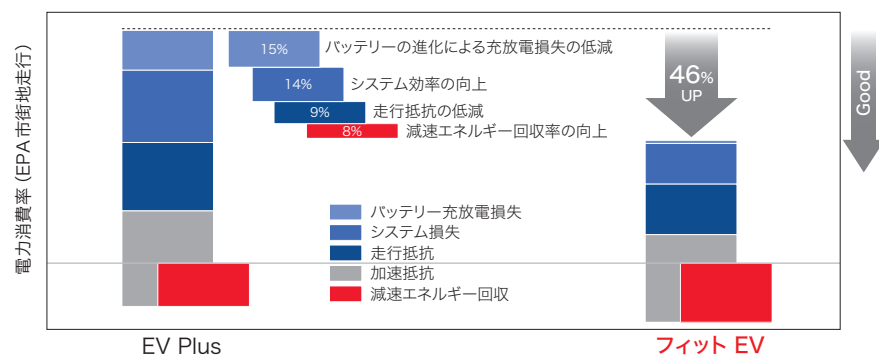
フィットEVは、パワートレインの効率向上/バッテリーの進化による充放電損失の低減/パワートレインの小型・軽量化と空力性能・タイヤによる走行抵抗改善/新開発電動サーボブレーキシステムによる減速エネルギー回収率向上によって、交流電力量消費率 106Wh/km<sup>※2</sup>、一充電走行距離 225km<sup>※2</sup>という電費を達成。Honda初の電気自動車「Honda EV Plus」と比べ、46%<sup>※3</sup>も電費を向上させました。

※1 2012年8月現在 (Honda調べ)。 ※2 JC08モード (国土交通省審査値)。交流電力量消費率は、走行距離と走行後の充電に要する交流充電電力量より算出。交流電力量消費率および一充電走行距離 (満充電の状態から走行可能な距離) は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境 (気象、渋滞等) や運転方法 (急発進、エアコン使用等) に応じて値は異なります。 ※3 Honda測定値。

### ■パワープラント総合効率比較 (Honda調べ)



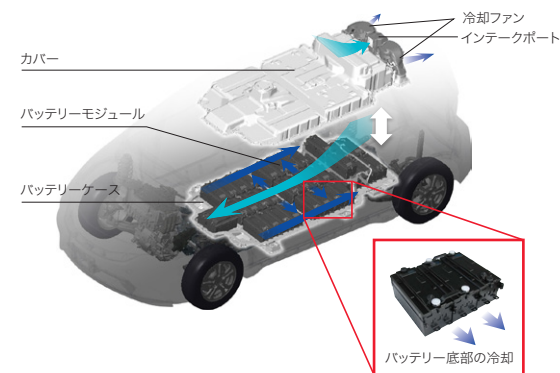
### ■エネルギー総合効率比較 (Honda調べ)



## 高性能リチウムイオンバッテリーの採用。

バッテリーは、優れた耐久性、安全性、回生受け容れ性などの性能を総合的に評価し、東芝製のリチウムイオンバッテリー SCiBを採用。Hondaでは、電気自動車に安心して乗り続けることができる信頼性を確保するためには、バッテリーの温度マネジメントも重要な要素と考え、金属のロアケースの上にバッテリーモジュールを並べて固定。樹脂のカバーでシールをしたバッテリーパックとして、床下に配置しながら、後方に2つの冷却ファンを設定。これにより、走行と充電を繰り返してもバッテリーの上限温度を超えることがなくなるので、温度上昇によるパワーダウンを回避することができます。さらに、長期にわたる使用の耐久性向上にも寄与します。

### ■Hondaバッテリーシステム



### ■Hondaバッテリーシステムの効果

